

地域のリハビリテーション職を活かした介護予防の取り組みから見たこと

鈴木比紗子¹⁾ 河口珠美¹⁾ 塚原涼子¹⁾ 佐野佳華¹⁾ 森林友佳子²⁾

1) 浦安市高齢者包括支援課 2) 浦安市猫実地域包括支援センター

背景

介護予防・日常生活支援総合事業に地域リハビリテーション活動支援事業が位置づけられたのを機に、全国と比較して高齢化率が低いのが今後、高齢者数の急速な増加が予測される浦安市では、介護予防の取り組みを強化していく必要があり、平成27年度からリハビリテーション(以下、リハ)職を活かした介護予防の取り組みを開始した。

目的

元気な高齢者が多いまちを目指し、リハ職と共に進めている介護予防の取り組みから地域リハの意義を明らかにし、今後もリハ職と連携しながら介護予防の取り組みをすすめていくことを考える。

方法

リハ職が関与した浦安市の介護予防の取り組みを以下の通りまとめた。

1. 浦安市地域リハビリテーション連携会議開催(平成27年から29年度まで計4回)

目的: ①市の事業にリハ職がどのように関与できるかを明らかにする

②リハ職の職能団体の創立を視野に入れ、地域のリハ職同士との横のつながりを作る

対象: 浦安市民に職務で関わるリハ職

参加人数: 30人前後

会議内容: (市からの説明) 地域リハの国の動向、浦安市の市民協働ですめる介護予防の実状など

(講師による講話) 地域リハについて

(グループワークテーマ) 住民と専門職で一緒に介護予防をどのようにしたら実現できるか

総合事業、地域リハ活動支援事業について協力できそうなこと

事例を用い、本人が「したい暮らし」の実現のために 専門職として何ができるのか

2. 市の事業やイベントへの協力(平成29年度～)

1) 短期集中予防サービス事業(通所型・訪問型): (委託) デイサービスや病院でリハ職等が行う運動機能向上プログラム等を2～3か月、通所または訪問にて集中的に提供する。

2) 地域ケア会議(自立支援会議): (報償) 介護予防ケアマネジメント(ケアプラン作成)への助言・指導、会議メンバーに生活支援コーディネーターを含め、高齢者実態把握、社会資源把握、地域課題把握

3) アセスメント訪問(H30～): (報償) 自立支援に資する介護予防ケアマネジメントにつなげることを目的にケアプランナーと同行訪問

4) 地域包括ケアシステム推進イベント

目的: 市民に地域リハ職の役割周知、リハ職の市の介護予防事業への理解、関係機関と市民活動団体とのネットワーク構築

内容: 浦安市リハ連絡会による介護予防体験

3. 地域リハ職と地域包括支援センター職員を対象とした研修会(平成30年度、令和元年度)

目的: 介護予防事業や自立支援会議への理解と関係機関とのネットワークづくり

成果

1. 浦安市地域リハ連携会議を機に、平成29年度に浦安市リハビリテーション連絡会が設立
行政にとって、リハ職の持つ力、職能の理解、事業所の現状を知る機会になった。

2. 対象者の介護予防や自立支援につながっている

1) 短期集中予防サービス事業の結果

①利用者のプログラム終了時内訳

		平成29年度		平成30年度	
		通所 (3か所)	訪問 (3か所)	通所 (4か所)	訪問 (3か所)
利用者数	実人数	36人	13人	49人	8人
	改善	25人	8人	39人	5人
	維持	4人	4人	3人	2人
	悪化	0人	0人	0人	0人
	中断	7人	1人	7人	1人

通所と訪問共にプログラム終了時の評価は「改善」が多い

②事業利用者の令和元年7月現在の
介護保険サービス利用していない方の割合

事業利用 年度	介護保険サービス利用していない方の割合	
	平成29年度	平成30年度
通所	58.3%	69.3%
訪問	46.2%	50.0%

通所は6～7割の方、訪問は5割の方が介護サービス利用なし

2) 平成30年度自立支援会議アンケート結果

対象: 地域包括支援センター職員(回答者数28名)

①リハ職アセスメント訪問事業

②多職種からの助言は利用者の自立支援に繋がっている

③自身のケアマネジメント方向上に役立っている

利用して良かった	機会があったら	利用方法が分からない	回答なし	大変そう思う	そう思う	ふつう	そう思わない	全く思わない	大変そう思う	そう思う	ふつう	そう思わない	全く思わない
3人	19人	4人	2人	1人	18人	6人	2人	0人	2人	21人	2人	2人	0人

3) 令和元年度研修会のアンケートのリハ職等からの意見

- ・対象者を自立に向けサポートするためには多面的でかつ専門的な考え方が必要だとわかりました
- ・自立支援会議で、他職種からの意見をまとめ、その方に合う方法を探して実践していくことを学んでいる
- ・その成果が現れ少しでもいい方向にいくことを願って参加したい

3. 市内全体で介護予防の意識の醸成につながっている

1) 地域ケア会議(自立支援会議、地域包括ケア評価会議)、地域包括ケアシステム推進イベントにリハ職が参加することで、情報共有やネットワーク構築につながっている。

2) 住民の通いの場でリハ職と連携し、介護予防活動の展開

・口腔機能向上のための教室(市主催)でリハ職による健康教育

・地域包括支援センター、社会福祉協議会、老人クラブ等の高齢者の集まりに事業所のリハ職派遣

・浦安介護予防7か7ミ(住民主体の通いの場)が実施する体操教室での体力測定をサポート、参加者への助言

3) 令和元年度研修会のアンケートのリハ職からの意見

・病院のリハ職だが、自立支援会議を通して、通常の仕事をしていく上でもたくさんの方の考えさせられます

・利用者の実際の生活がよくなるためにしっかり機能していきたい

考察

- 介護予防の取り組みの中で、リハ職が関与することで、
地域包括支援センター、介護サービス事業所等支援者にとって、「ケアマネジメント力の向上」、
リハ職にとって、介護予防事業や地域ケア会議に関与することで、地域の暮らしの視点を持つ機会が得られ、「地域リハとしてのスキルアップ」、
住民にとって、「個々の自立支援、住民活動支援」に、
行政にとって「リハ職の職能の理解」につながっている
→介護予防や自立支援にとどまらず、地域包括ケアシステムの構築につながっている。
- 地域における介護予防の取組をより一層機能強化していくために、市と浦安市リハビリテーション連絡会が組織的につながる必要がある。
また、リハ職の市の事業や取り組みへの協力には、事業所の理解が必要で、市と事業所との調整と丁寧な関わりが必要である。
- 浦安市は平成21年度から市民協働で介護予防事業を進めているが、今後、リハ職、支援者、住民が、「リハ職が介護予防に関わる意義」を理解することで、更に、地域リハビリテーション活動支援事業の普及に努めていきたい。
そして、住民とリハ職の関与を促進し、介護予防、自立支援を促し、元気な高齢者が多いまちにつながることを目指していきたい。